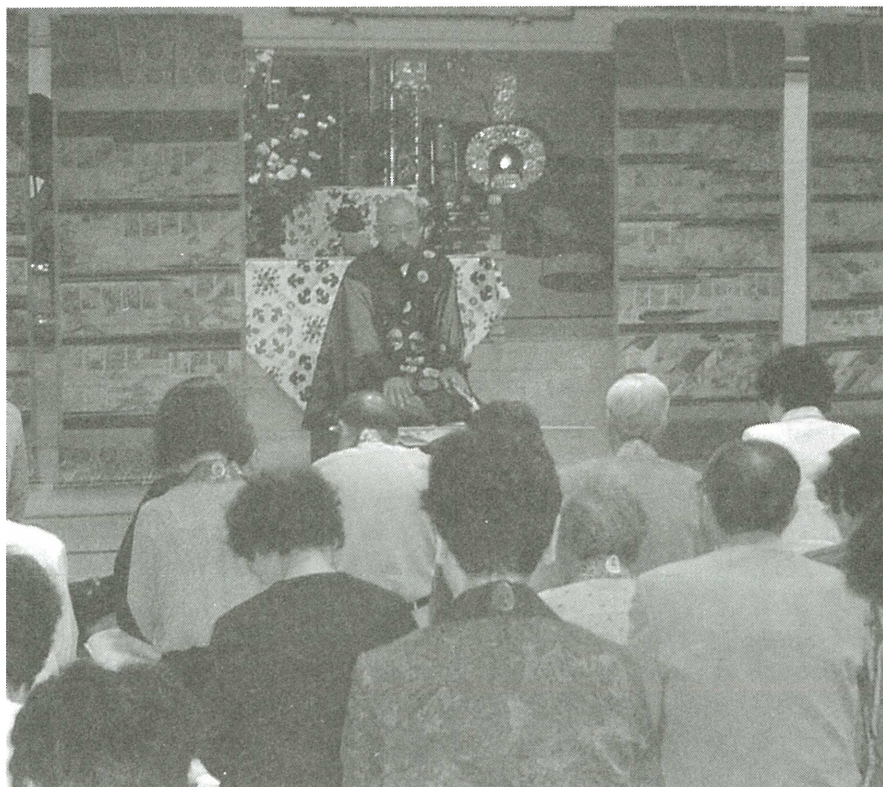




く別院だよりく

モダン寺新聞

第17号

発行所

浄土真宗本願寺派 本願寺神戸別院
〒65000011
神戸市中央区下山手通八丁目二番号
TEL 07813415949

一口法話 「さるべき業縁のもよほさば・・・」

「ごめんなさい」幼い頃から友達とケンカをした後は、この言葉で仲直りをしたものです。近頃の私たちは、モラルの低下と共にこの言葉を忘れてしまったかの様です。毎日の様にテレビから流れてくる事件のニュースも今の時代の風潮を色濃く映し出しているものでしょう。

この頃、交通事故の目撃者捜しの立て看板を町の至る処でよく目にします。

〃〇月〇日〇時〇分、トラックと歩行者の事故を目撃された方は、〇〇警察署までご連絡下さい〃といった内容のものです。看板を見かけるたびに、「どんな事故だったんだろう。歩行者の人は大丈夫だったのかな?」「当事者の人は罪の意識を感じているのかな?」と心配やら腹立たしいやらで落ち着きません。私も経験があるので、最近事故を起こしても保険会社の方が仲介される事が多く、当事者同士が顔を合わせる事もなく事務的に処理されるようです。つまり、当事者が被害者に対して罪の意識を感じているのかも分からず、当然謝罪の言葉を述べることもないという訳です。皆さんがある日突然加害者になってしまったらどうされるでしょうか? 恐らく私は仲介して頂く事になるでしょう……。

『歎異抄』の中に「さるべき業縁のもよほさば、いかなるふるまひもすべし」という聖人の御文が引かれてありますが、これは、私達人間の行為は、善惡にとられていて私の思慮を超えた縁によるもので、自分の思いのまま善人になれる様な単純なものではないので、縁にもよおされたらどの様なふるまいもいかなる存在であるという私の姿を表されています。そして同時にその姿こそが、摂め取って捨てないというご本願の光に照らされた、ありのままの私の姿であったとお念仏をおしてあじわわせて頂く事でございます。

モダン寺でも秋の彼岸会法要がお勤まりになったと思いますが、お彼岸の七日間はお浄土をしのぶ仏教週間と言われます。ご家庭のお仏壇やお手次のお寺にお参りさせて頂き、お念仏のいわれをたずね、自分と向き合う、そういう一時を過ごしてみたいいかがでしょうか。

阪神西組 源光寺 釋氏智洋

第八回

「仏教 ことが知りたい」

われわろし

一人の旅の修行僧が、旅路の途中、木陰に身を休めていた。そこへ、重い足を引きずりながら、老夫婦がやってきて、腰をおろした。身も心も弱り果てている様子である。

しばらくしたところで、修行僧が声をかけた。

「どちらへいかれるのですか」

「はい、都へまいります」

老夫婦は疲れた様子で答えた。しかし、ただ、身体が疲れているだけではなく、心に悩み事をもっているということで、修行僧に話を聞いてもらうことになった。

「実は都に息子夫婦がいます。互いにいがみ合いケンカばかりしており、二人の間に子どもまでいるのですが、別れる別れないのと言いつ争い、どうすれば仲直りさせられるのかと、そればかり胸を痛めています。」

しばらく考えていた修行僧が、ゆっくりと口を開いた。

「世間には、二通りの人がいます。無恥で欲張りで他を見下げおごり高ぶる人と、恥を知り、欲も少なく、他をあげるつましやかな人であり、つまり、われをよし(良い)とわれをわろし(悪い)とするのとの、全く違った生き方があるのです」

老夫婦は黙って修行僧を見ている。さらに、修行僧は続けた。

「夫婦には四つの組み合わせがあります。夫も自分をよしとし、妻も自分をよしとする一組。

夫は自分をわろしとするが、妻は自分をよしとする一組。

夫は自分をよしとするが、妻は自分をわろしとする一組。

あとは、夫も自分をわろしとし、妻も自分をわろしとする一組です。さあ、あなたがたご夫婦はどの組にあたりますか」

頷きながら聞いていた老夫婦は、いたわるような眼差しで相手を見つめた。

老爺がまず口を開いた。

「はい、私どもは多分、わるい夫とよい妻との組み合わせでありましょう。わがまま勝手なことばかりする夫を助け、我慢づよくついて来た妻ですから」

すると老婆が強く首を横に振った。

た。

「いいえ、とんでもありません。要領がわるく、間違えばかりしかし、いつも迷惑をかけてきたのは私の方です。愚かな私は、この人あればこそここまで来ることができました」

修行僧は、二人の言葉を聞いてにっこり微笑んだ。

「あなたたちのように、謙虚でお互いを思いやる人たちにとっては、それぞれ自分が至らなく相手の方が優れて見えるものです。自分をわろしとする者同士が寄り添ってこそ、夫婦の絆は強くなってゆくでしょう。しかし、世間にはあなた方お二人のような《われをわろし》とする組み合わせは少ないのです」

「いいえ、お恥ずかしいことでござい。常日頃、仏さまのみ教えをお聞かせ頂いてはいるのですが・・・」

「なるほど、よくわかりました。」

仏法聴聞に遇うたんびに、愚かな自分が見えてくる、有り難いことです」

「・・・」

「ところで、夫婦喧嘩の絶えない息子さんたちの組み合わせは、どうなのでしょうか」

「はい、二人とも自分をよしとし、正しいとして、相手をののしっています」

「そうでしょう。都へ着かれれば、息子さんたちに、この四つの夫婦像についてお話しなさってはいかがでしょうか」

修行僧は、老夫婦に慈しみの眼差しを送りながら、その場を立ち去って行った。

このお話は、夫婦の組み合わせという枠組だけの話ではありません。

常日頃から、沢山の人たちと接している私たちであります。それぞれの個人が、自分をよしとすれば、互いにおつきあうのは、目にみえていることでしょう。自分が正しいという判断は、あくまで、自分の中の価値観、自分勝手な価値観に過ぎないのです。一人一人がそのことを理解していくことで大げさですが、世界も変わっていくのではないのでしょうか。

まず、私自身から心がけてみましょう。

※前号の「ダンミカのいかり」とあわせてお味わいください。

◆◆◆ 神戸別院行事レポート ◆◆◆

モダン寺 晩天講座

毎年恒例のモダン寺晩天講座を八月一日（金）から三日（日）に渡り開催いたしました。

ご講師には、

一日、阪神南組浄元寺

宏林晃信師、

二日、揖龍東組源徳寺

和田宏之師、

三日、加古川組金照寺

宰務清子師、

を迎え、七時から正信偈をお勤めし、その後ご法話をお聴聞しました。ご法話終了後、一階ホールにて、別院仏教婦人会の方々が用意してくださったお粥を皆様と一緒にいただきました。日常とは、一味違った朝の貴重な時間を過ごしていただきお参りに来られた方々にもよろこんでいただけたいようにうでした。来年も開催いたしますので、お待ちしております。

お盆参り

八月十一日（月）から十五日（金）までの間、ご門徒さんのお宅へお盆参りにお伺いさせていただきます。

今年は例年になく涼しい気候の中での盆参りとなりました。

お盆のお参りでは、普段お伺いしないご門徒さんのお宅へもお伺いさせていただける貴重なご縁もあり、私たちにとっては、楽しまの一つでもあります。何かとお忙しい中、ご丁寧に迎えていただき、ありがとうございます。

来年もどうぞよろしく願います。

孟蘭盆会

お盆の最終日に当たる八月十五日（金）午後一時三十分より「孟蘭盆会」を厳修いたしました。

お盆ということもあり、沢山の方々がご参拝くださいました。

『仏説阿弥陀經』を皆さんとお勤めした後、当別院輪番井上博雄の法話を通し、本当のお盆の意味、お盆というものは、どのように過ごすべきなのか、ということをお聴聞させていただきました。亡くなられた方が帰って来るのではなく、亡くなられた方をご縁としてお参りさせていただくことがお盆の本当の過ごし方でありま

秋季彼岸会

平成十五年九月二十二日（月）二十四日（水）の三日間、秋季彼岸会を厳修いたしました。ご講師には、東北教区山形組常得寺の前田利泉師をお招きしました。

二十三日（火）午前十一時から別院建設懇志を収めていただいた方々を対象に永代経開闢法要を勤修し、二十四日（火）午後一時からは、秋季彼岸会と併修して、納骨者追悼法要を厳修いたしました。季節の変わり目ということもあり、過ごしやすい気候の中で、彼岸のお話をお聴聞させていただきました。また、二十三日には、午前十時から「門信徒の集い」を開催いたしました。前半は、一休さんと蓮如上人を通しての私たちの物の見方、仏教の味わい方といったお話、後半は親鸞聖人の御絵伝を見ながらの絵解き説法（表紙写真）といった内容で行いました。四十人余りの方々におこしいいただき、和やかな雰囲気の中での集いとなりました。集いが終わると、皆さんと一緒に別院仏教婦人会の方々に作っていただいたお齋をいただき、法要終了後には、おほぎを配り、お持ち帰りいただきました。

土曜子ども会サマースクール

サマースクールに行つて、全く知らない人たちと交流して、仲を深めた。最初の方は、みんな、ギクシャクしてたけど、すぐに、気軽に話しかけられるようになった。ぼくは、班長でいろいろあったけど、3班の班長と、かなり仲良くなれた。ちょっとケンカもあったような気がするけど。

その分いい思い出がいっぱいできた。サマースクールの目標である、「つながり」ということが、以上のことだ。きたと思ふ。特に、

一緒に班になった人たち、班長会議に出た班長の人たちとは、かなりの仲を深めることができた。

サマースクールに行けて本当に良かった。

モダン寺土曜子ども会

山本 峻平



別院行事予定

十月

○第一土曜仏教講座

四日(土)

十三時三十分より

講師 阪神南組 安養寺

足利孝之師

講題 「信心をいただく」

○別院仏教婦人会定例法座

七日(火)

十三時三十分より

講師 奈良教区吉野北組 光明寺

三浦性暁師

講題 「如来の大悲」

○別院常例法座

十五日(水)・十六日(木)

十三時三十分より

講師 姫路中組 西徳寺

井上英樹師

講題 「み名を聞く」

十一月

○第一土曜仏教講座

一日(土)

十三時三十分より

講師 中央仏教学院講師

日野和憲師

講題 「《観無量寿経》に聞く

王舎城の悲劇」

○別院仏教婦人会定例法座

七日(金)

十三時三十分より

講師 赤穂北組 称念寺

瀬川慎師

講題 「回心懺悔」

○別院常例法座

十五日(土)・十六日(日)

十三時三十分より

講師 神姫組 泰法寺

道元徹心師

講題 「涙に宿るみ佛」

○報恩講

二十七日(木)・二十九日(土)

講師 石川教区鹿島組

櫻井瑞彦師

講題 「真に実りのある生活」

十二月

○第二土曜仏教講座

六日(土)

十三時三十分より

講師 奈良教区葛城中組 専立寺

脇屋眞一師

講題 「我が子ならてにおえないと

すてはせぬ

少年犯罪からの問い 家庭・人間・社会」

○別院仏教婦人会定例法座

休座

○別院常例法座

十五日(月)・十六日(火)

十三時三十分より

講師 神戸東組 西念寺

副 高朗師

講題 「家庭を基に」

○除夜会

三十一日(水)

十七時より

○元旦会

平成十六年一月一日(木)

七時より

土曜講座

日時 : 第一土曜以外の土曜日
午後1時30分より場所 : 本願寺神戸別院(モダン寺)
3階 総会所にて

是非、お参りください

法務日誌

残暑の厳しさも次第に和らいできました。行事レポートにも書きましたが、先日、別院仏教婦人会の方々に作っていただいたお齋をいただき、久しぶりに「おふくろの味」を味わった気がしました。実家を離れ、自給自足の生活をしていると、親のありがたみがよくわかってきます。

「有ることが難しい」と書いて「有り難い」。普通だと思っていたことがそうでなくなつて初めて気づく私であることを「おふくろの味」をいただき、改めて考えさせられることになりました。